

令和8年度 第2回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

専門試験

科目名：023.人間形成論

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字のⅠ、Ⅱ……）ごとに別の解答用紙を用いること。  
ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

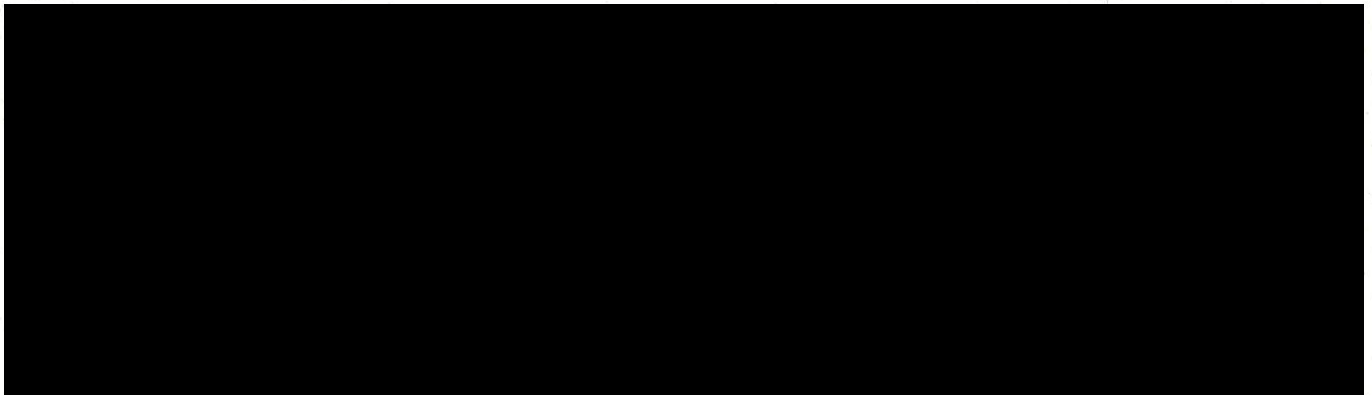
次のA~Dの中から志望する分野の問題を1つ選び、日本語で解答しなさい。ただし、問題のなかに特別な指示がある場合は、指定された言語で解答すること。

A (精神病理学・精神分析学)

第1外国語として「日本語B」を選択した者は、次の英語の指示に従ってください。それ以外の者は、以下のⅠ~Ⅲの文章から2つを選び、それぞれ全体を和訳した上で、その背景や周辺の事柄について知るところを論述しなさい。

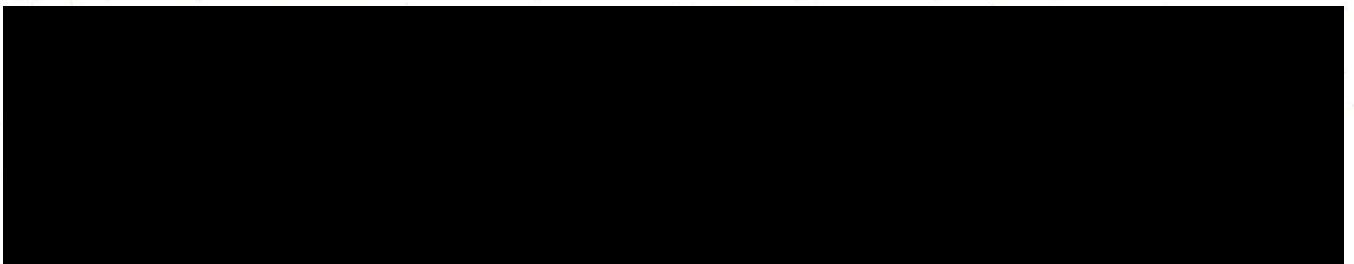
For those who have selected “日本語B (Japanese B)” as their “第1外国語 (first foreign language)” examination: Choose two texts from I to V and translate them into one of the following three languages (English, Japanese or French). Please comment on both texts within the limit of one page per text in English or French. (Note: Texts written in English cannot be chosen for translation into English. Texts written in French cannot be chosen for translation into French. Texts written in Japanese cannot be chosen for translation into Japanese)

I



*(Sigmund Freud, An Outline of Psycho-Analysis. International Psycho-Analytical Library, 1949)*

II



*(Jacques Lacan, Le moi dans la théorie de Freud et la technique de la psychanalyse. Seuil, 1977)*

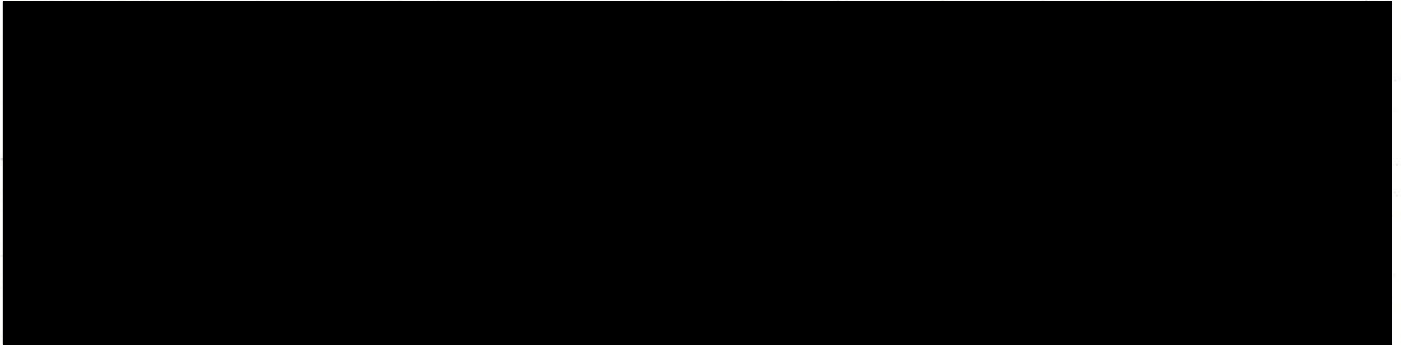
令和8年度 第2回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

専門試験

科目名：023.人間形成論

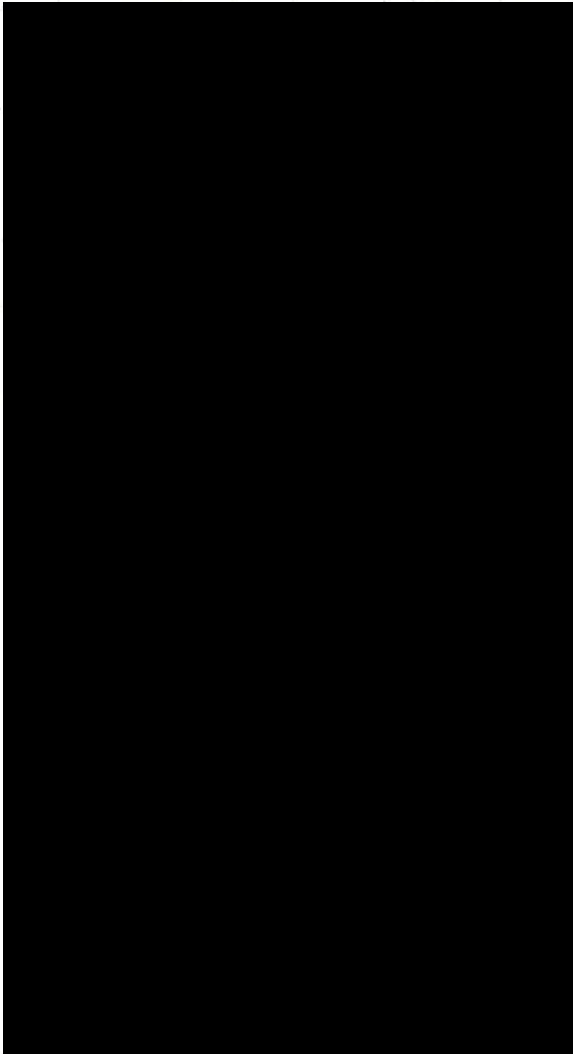
(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字のⅠ、Ⅱ……）ごとに別の解答用紙を用いること。  
ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

Ⅲ

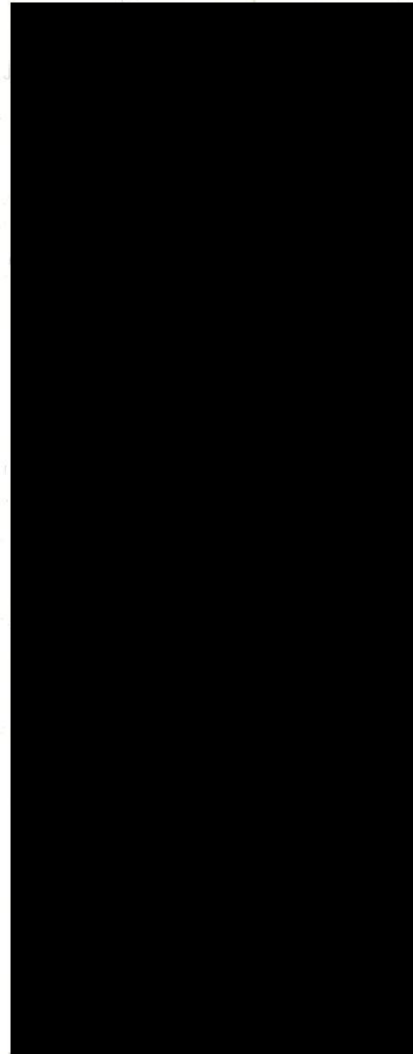


(Gerd Huber, *Psychiatrie: Lehrbuch für Studium und Weiterbildung*. Schattauer Verlag, 2005)

Ⅳ



Ⅴ



(アラン・ヴァニエ『はじめてのラカン精神分析:初心者と臨床家のために』、2013年)

令和8年度 第2回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

## 専門試験

## 科目名：023.人間形成論

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字のⅠ、Ⅱ……）ごとに別の解答用紙を用いること。  
ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

## B (発達心理学)

以下のⅠ～Ⅳの問いにすべて解答しなさい。

Ⅰ. 次の①～④のうち2つを選び、その語句について詳しく解説しなさい。

- ①危機 (エリクソン)                      ②スタンフォード監獄実験 (ジンバルドー)  
③諸感覚の原初的基盤 (ウェルナー)    ④投影 (ワロン)

Ⅱ. ヴィゴツキーは子どもの概念発達の過程をどのようなものとして描出したか。彼の理論の特徴を明らかにしながら論じなさい。

Ⅲ. 乳幼児期の子どもの心の育ち (主体性の生成・形成過程) を明らかにする上で、ヴィゴツキーの理論に欠けている視点とはどのようなものか。乳幼児期の子どもの具体的な成長過程を例に挙げながら論じなさい。

Ⅳ. 心理学のインタビューにおいて、語りの逐語録を客観主義的に分析していくような従来型のアプローチでは捉えきれないものに対して、調査者の「固有性」や「主観性」を活かして迫っていくとするアプローチがある。そのようなアプローチがなぜ必要なのか、また、それは客観主義的アプローチからの批判にどう応えようとしているか。「固有性」や「主観性」を活かすための具体的な手続きを解説しながら論じなさい。

## C (教育社会学)

以下のⅠ～Ⅲの問いに全て解答しなさい。

Ⅰ. 以下の語群のなかから4つを選び、それらについて解答者が知るところを詳しく述べなさい。はじめに選んだ記号を書き、その後に続けて解答を書くこと。

- a. 学びの多様化学校    b. 第一次社会化／第二次社会化    c. 銀行型教育／問題解決型教育  
d. ブルデュー『ディスタンクシオン』    e. 能力別学級編成    f. 教師のシャドウワーク

Ⅱ. 「学校から仕事への移行 (トランジション)」にまつわる諸問題を、普遍的・一般的な次元と日本において固有にみられる次元とに分けて整理しながら、詳しく述べなさい。

Ⅲ. 「家族の教育戦略」をめぐる、教育社会学においてどのような知見が蓄積されてきたかを述べた上で、このキーワードから今後どのような研究の発展が見込めるか、解答者の考えを述べなさい。

令和8年度 第2回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

専門試験

科目名：023.人間形成論

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問(ローマ数字のⅠ、Ⅱ……)ごとに別の解答用紙を用いること。  
ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

D (教育史)

以下のⅠ～Ⅲの問いに全て解答しなさい。

Ⅰ. 以下の①～④の中から2つを選び、それが何を意味しており、どのような歴史的意味をもっているのか、論じなさい。

- ①大正新教育(大正自由教育)                      ②男女共学  
③高度経済成長期における集団就職              ④「ゆとり教育」

Ⅱ. 日本社会における教育について、第二次大戦以前と以後とでは何が変わり、何が変わらなかったのか。その連続と断絶について、具体例を挙げながら論じなさい。

Ⅲ. 明治期において、小学校を規定する法令は学制、教育令、小学校令と変遷した。この間、小学校はどのような教育機関として構想され、実際にはどのような展開を見せ、最終的にどのような位置づけの教育機関として定着したか、論述しなさい。その際、以下に挙げる用語を全て使用し、使用した部分には下線を引くこと(用語は何度使用しても構わない)。

等級制、修身、教育ニ関スル勅語、就学率、進級・卒業試験の廃止、授業料の無償化、学級制